

各 位

上場会社名	株式会社 カッシーナ・イクスシー
代表者	代表取締役社長 高橋克典
(コード番号)	2777)
問合せ先責任者	取締役管理本部長 小林要介
(TEL	03-5725-4171)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年2月24日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年12月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,600	△124	△145	△152	△380.47
今回発表予想(B)	3,029	△341	△215	△420	△1,052.34
増減額(B-A)	△571	△217	△70	△268	
増減率(%)	△15.9	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年12月期第2四半期)	4,123	△189	△153	△321	△806.86

平成21年12月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	7,650	77	36	21	52.56
今回発表予想(B)	6,000	△528	△574	△793	△1,984.93
増減額(B-A)	△1,650	△605	△610	△814	
増減率(%)	△21.6	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成20年12月期)	8,039	△149	△86	△882	△2,210.04

平成21年12月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,600	△146	△161	△162	△395.98
今回発表予想(B)	3,027	△357	△212	△416	△1,016.84
増減額(B-A)	△573	△211	△51	△254	
増減率(%)	△15.9	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年12月期第2四半期)	4,117	△209	△154	△306	△750.27

平成21年12月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年1月1日～平成21年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	7,650	33	3	1	2.44
今回発表予想(B)	6,000	△560	△590	△804	△1,965.24
増減額(B-A)	△1,650	△593	△593	△805	
増減率(%)	△21.6	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成20年12月期)	8,031	△206	△161	△935	△2,285.54

## 修正の理由

### (1) 第2四半期

当第2四半期累計期間における経済の全般的な状況は、世界的な金融不安や、急激な需給バランスの悪化による生産調整などの影響から企業収益や雇用情勢が悪化し、個人消費が停滞するなど景況感が急速に悪化いたしました。家具・インテリア業界におきましても、企業における設備投資意欲の鈍化に加えて、景気の先行き不透明感などを背景に新設住宅着工戸数が前年実績を大幅に下回る水準で推移したことなどにより、家具を含む耐久消費財に対する個人消費の動向も低調な動きが継続しております。

このような環境のなか、当社におきましては一部に大型案件の受注は獲得できたものの、需要予測を大きく下回る状況に加え、少ない需要に対する価格競争も激しさを増しているなか、特に法人向け、東京エリアでの売上が大きく減少いたしました。昨年来より、販売費および一般管理費の削減を徹底しており削減効果をしっかりとあげることができたものの、上記減収の影響を吸収することはできず当初予想した損益状況を下回るに至りました。また、大阪エリア、名古屋エリアの店舗内装設備について減損損失を計上したことで、四半期純損失が拡大する結果となりました。

以上により、連結売上高3,027百万円(前回予想比15.9%減)、連結営業利益△528百万円(前回予想△124百万円)、連結経常利益△574百万円(前回予想△145百万円)、連結当期純利益△793百万円(前回予想は△152百万円)に修正いたしました。

個別業績は、売上高3,029百万円(前回予想比15.9%減)、営業利益△357百万円(前回予想△146百万円)、経常利益△161百万円(前回予想△212百万円)、四半期純利益△416百万円(前回予想は△162百万円)に修正いたしました。

### (2) 通期

通期の見通しにおきましては、製造業における在庫調整の一巡に伴う生産量の回復など一部に明るい兆しはあるものの、雇用関連の指数は依然として悪化の一途をたどっており、家具・インテリアの需要動向は引き続き厳しい環境が継続するものと考えております。第3四半期において、数件の大型案件を受注しているものの、その他受注案件の数や規模が前年対比で落ち込んだ状況を回復できる見通しが現時点ではたっていないため、下半期の売上高ならびに売上総利益の予想を上半期と同程度の金額に修正いたします。また、販売費および一般管理費については、年初より実施した経営合理化施策の効果が下半期にでてくるものの、売上高の減少分をカバーすることはできない見通しとなっております。また、第2四半期累計期間に営業外収益に計上したデリバティブ評価益に関しては、期末時点のユーロ円の為替レートに大きく影響されるため通期における予想には、この評価損益を織り込んでおりません。

以上により、連結売上高6,000百万円(前回予想比21.6%減)、連結営業利益△343百万円(前回予想77百万円)、連結経常利益△218百万円(前回予想36百万円)、連結四半期純利益△437百万円(前回予想は21百万円)に修正いたしました。

個別業績は、売上高6,000百万円(前回予想比15.9%減)、営業利益△560百万円(前回予想33百万円)、経常利益△590百万円(前回予想3百万円)、当期純利益△804百万円(前回予想1百万円)に修正いたしました。

### その他

上記の業績予想につきましては、本資料の発表時点において入手可能な情報及びその業績に影響を与える不確実な要因に係る仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

以上